

高美小学校内 TM だより

R7.10.21.NO.22

3年2組の算数の授業におじゃましました。

★身近なものを使うことで課題を自分事に★

新しい単元、「何倍でしょう」の1時間目でした。「理科の実験で車を使ったの覚えてる？」と問いかけるところからスタートされました。これには全員の首が縦に動きました。長岡先生の計算通りです。次にテレビ画面に映し出されたのは、長岡先生と隣のクラスの羽倉先生の顔。二人で車を走らせたという設定で導入をしておられました。子どもたちは大盛り上がりでした。自分たちが経験した理科の実験を、先生たちが知らないうちにしていたなんて面白くて仕方がありません。「羽倉先生の車は、長岡先生の車の、3 倍の距離を走りました。羽倉先生の車は何メートル走ったでしょう」という問題に全員が取り掛かりました。算数というだけで、目をそむけてしまうような子も、自分にとって身近な物や人が出てくると、「ちょっとやってみようかな」という気になりますね。

★参加しやすい雰囲気づくり★

導入での盛り上げを引きずらず、切り替えが素晴らしかったです。本時の問いは「何倍かを考える」というところでした。かけ算を使うのか、わり算を使うのか、子どもたちの意見は分かれました。長岡先生はそのどちらも尊重し、少数派の子も手が上げやすくなるよう、「こっち少ないから先生も手挙げとこっかな」とさりげなくフォローしておられました。この時だけでなく、すべての子が参加できるように、少数派や間違えてしまった子に対してフォローするシーンは何度も見られました。「間違えても大丈夫」という空気は、こういうところから作られているのだと感じました。かけ算、わり算については、結局どちらの考えも発表させ、より短い時間でできるのはどちらか全体で吟味することで学びを深めておられました。高学年になっても重要である、数量関係を表す図の書き方は、新しい知識なので先生が主となって指導されていました。

～まとめ～

ちょっとした工夫で、導入で一気に子どもたちを引き付けることができます。今回参観させていただいた授業は、まさにそんな導入だったと感じました。教科書通りの導入に、少し自分たちと結びつく何かが入ることで、課題が「やってみたい」と感じるものになりました。今回の授業では、導入のあとの、めあてや考えの発表は子どもたちに委ねておられました。しかし、それでいて指導内容は教科書で示された内容とばっちり一致していました。子どもたちが前向きに発言し、発表内容を吟味することで学びを深めることができたのは、導入の工夫と、発言しやすい雰囲気づくりによるものだと感じました。長岡先生、3年2組のみなさん、ありがとうございました。

